

平成 25 年 9 月 22 日 (日)
可児市教育委員会

○調査の目的

うのはながき

牟田洞古窯跡は、国宝「卯花塙」が焼かれたといわれ、荒川豊蔵が歴史的な発見（志野が焼かれた場所）をした窯跡です。その窯跡がどのような窯跡であったかを解明することが目的です。

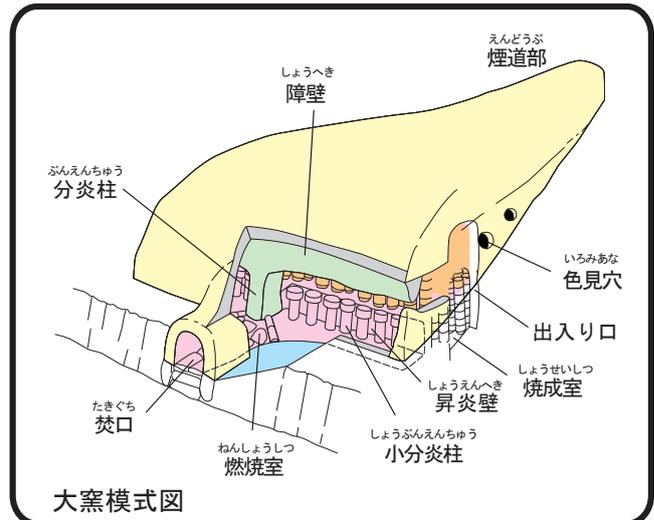
○牟田洞窯跡はどんな窯？

- ・今から約 400 年前に様々な陶器を焼いていました。
- ・天井や壁を地上に造った窯跡です。(右図)

おおがま
(※大窯と呼び、現在みられる姿は天井や壁がくずれた後です。)

○今回の調査によってわかったこと

※窯跡が 4 つあることがわかりました。



窯 A… 大きさ 推定残存長約 6.7m、最大幅約 2.8m

焼いていたもの 天目茶碗、搦鉢、皿類、黄瀬戸など

□壁がみられます。

窯 B… 大きさ 推定残存長約 2.5m、残存幅約 1.5m

□焼成室の上部がわずかにみられます。

窯 C… 大きさ 残存長約 5.2m、最大幅約 3.6m

焼いていたもの 天目茶碗、搦鉢、皿類、志野、瀬戸黒など

□燃焼室より下部は流出していますが、分炎柱がみられます。

窯 D… 大きさ 推定残存長約 6.0m、最大幅約 2.4m

焼いていたもの 天目茶碗、搦鉢、皿類、志野、瀬戸黒など

□燃焼室付近をみるができます。

※出土した陶片から窯の造られた時期は 窯 A → 窯 C → 窯 D と考えられます。(窯 B は不明)

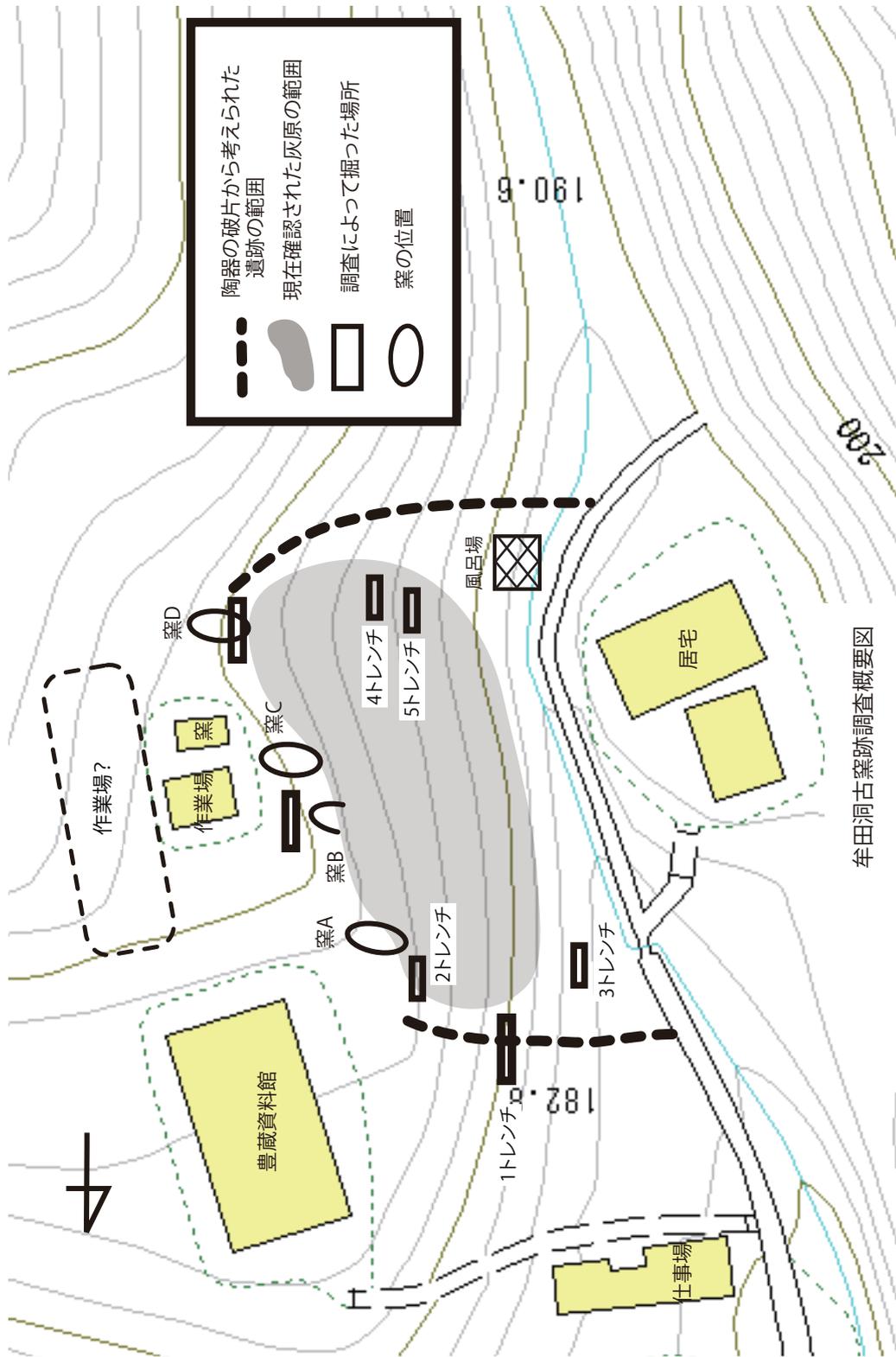
※灰原 (失敗した陶器と灰を捨てた範囲) は南北に約 60m 広がっています。

可児市にはむかし多くの窯がつくられ、たくさんの焼物を多くの地域に運んでいた文化の発信地だったんだよ。

可児市のほこりである窯をだいにまもっていこうね。



志野ちゃん



牟田洞古窯跡調査概要図

語句説明

- ・ 焚口・・・焚木の投入口
- ・ 焼成室・・・陶器を焼く部屋
- ・ 昇炎壁・・・炎を上へ吹き上げるために設ける
- ・ 小分炎柱・・・炎を左右にわけ、温度を高める役割
- ・ 燃焼室・・・焚木を燃やす部屋
- ・ 分炎柱・・・炎を左右にわけ、温度を高める役割
- ・ 煙道部・・・煙が出るところ
- ・ 障壁・・・仕切り。温度を高める役割